

奈良の

むかし
ばなし

文・山崎しげ子

第七話

しょうりん 聖林寺のお地藏さん



命延安子 地藏菩薩像

聖林寺は、奈良時代、談山妙庵寺(今の談山神社)の別院として、藤原定憲(鎌足の長子)が創建したとされる。度重なる兵火により伽藍は焼失したが、本尊の彩色を施した大きな石造、地藏菩薩像(江戸時代中期)は子授け、安産に靈験あらたかとして今も信仰されている。向かって右に掌菩薩子、左に掌惡童子を従える。



今回は、桜井市にある聖林寺の大きな石のお地藏さんのお話。
昔、このお寺に文春和尚という偉いお坊さんがおられた。かねてからお地藏さんを造りたいと願っていたが、このあたりにはいよいよ石はあるが、仏像を彫る仏師がいない。
困っていると、ある夜の夢で、但馬の国(兵庫県)によい仏師がいると告げられた。翌朝、早速、但馬の国へ出発した。
夕方、奈良まで来ると、向こうから三人連れの男たちが来た。
「もしもし、どちらへお出かけじゃ」「はい、私どもは但馬の国の仏師でございます。よい石がなくて困っていましたら、夢で大和に立派な石が



江包・大西のお綱祭り(2月11日・国の重要無形民俗文化財)
豊作と子孫繁栄を祈る桜井市の祭り。新藁を持ち寄り、江包地区で男綱を、大西地区で女綱を作り、素盞鳴神社で合体し、「綱の結婚式」を行う。

☎0744-42-9111(桜井市観光課)

あると知り、喜び勇んで来ました」「ほう、それはよかった。私も、夢のお告げで但馬の国に立派な仏師さんがいると教えられ、出かけて来たところじゃ」
文春和尚は大喜びで、早速、その仏師らを連れて寺へ戻った。
そして、次の日から、仏師らはお寺でお地藏さんを彫った。こうして完成したのが、今も、子授け、安産の仏として広く信仰を集めているご本尊のお地藏さんである。
寺伝では、和尚の姉が幾度も出産で難儀したためともいう。今のよう
に医学が進歩していなかった江戸時代、お産にまつわる悲劇も多かった
であろう。このお地藏さんが信仰を

物語の場所を訪れよう



「聖林寺」(桜井市下692)へは…
近鉄・JR桜井駅下車、奈良交通バス桜井駅南口から多武峰・談山神社行き「聖林寺前」下車すぐ。国道165号薬師町交差点南へ2.2km。
☎0744-43-0005

集めたわけもなすける。
聖林寺は、桜井市の南、多武峰の談山神社に向かう途中、山並みの中腹にある。高台のお寺から北を望む眺めはまさに絶景。右手に秀麗な稜線の三輪山、その麓に広がる大和盆地には、卑弥呼の墓ともいわれる箸墓古墳、近くには邪馬台国かと注目されている纏向遺跡も。
明治初年、神仏分離の嵐の中で危機にあった仏像を、芸術作品として再評価したフェノロサ。彼が絶賛した国宝の十一面観音像(検索してね)の寺としても有名だ。
真冬の冷たい風が肌を刺す中、山麓を流れる寺川の湧えたせせらぎの音が懐かしい。